

令和3年定例会 2月定期議会
産業建設常任委員会調査報告書

令和3年3月5日

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会 活動状況

〔報告期間〕 令和2年12月4日～令和3年1月29日

日時	活動区分	内 容	頁
12. 4 (金) 16:07～16:31	協 議	<ul style="list-style-type: none"> ■12月定期議会中における調査事項について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員6名	—
12. 9 (水) 10:45～11:45	所管事務調査① (議案調査)	《産業経済部》 <ul style="list-style-type: none"> ■指定管理者の指定について (南方産地形成促進施設、もくもくランド) 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員7名 産業経済部 阿部部長ほか4名	—
12.10(木) 10:00～正午 13:30～15:20	所管事務調査② (議案調査)	《農業委員会事務局》 <ul style="list-style-type: none"> ■一般会計補正予算について 《建設部》 <ul style="list-style-type: none"> ■立地適正化計画について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員7名 農業委員会事務局 田辺局長ほか1名 建設部 千葉部長ほか5名	—
	(現地調査)	(現地調査) <ul style="list-style-type: none"> ■都市公園の整備について (豊里花の公園及び豊里こども園) 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員6名 建設部 千葉部長ほか7名 福祉事務所子育て支援課 志賀係長ほか1名	4
12.14(月) 10:04～正午	所管事務調査③ (議案調査)	《産業経済部》 <ul style="list-style-type: none"> ■一般会計補正予算について ■放射能汚染の農林業系廃棄物の処理について ■登米市農業振興地域整備計画の見直しについて ■人・農地プラン実質化について ■登米市商工観光振興計画の見直しについて 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員6名 産業経済部 阿部部長ほか7名	7
12.16(水) 9:58～11:05	協 議	<ul style="list-style-type: none"> ■陳情・要望の取り扱いについて ■意見交換会のふりかえりと意見整理 ■委員会報告について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員7名	—

日時	活動区分	内 容	頁
1.12(火) 10:00~12:08	所管事務調査④ (議案調査)	《産業経済部》 ■新型コロナウイルス感染症対策支援事業について ■水田フル活用ビジョンの概要について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員7名 産業経済部 阿部部長ほか7名	—
1.15(金) 13:42~14:00	協 議	■今後の年間活動計画の確認について 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員6名	—
1.19(火) 11:00~12:00	協 議	■登米総合産業高校との意見交換会について ・オンライン会議リハーサル 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員6名	—
13:20~14:35	意見交換会	■登米総合産業高校との意見交換会 〔出席者〕 氏家委員長ほか委員6名 登米総合産業高等学校 服部教頭ほか先生方4名 情報技術科3年生36名	11

産業建設常任委員会 活動概要

【所管事務調査②】

1. 期 間：令和2年12月10日(木) 午後1時30分～午後3時20分
2. 場 所：迫庁舎3階 第3委員会室
豊里公民館、豊里花の公園及び豊里こども園
3. 事 件：立地適正化計画について
(現地調査)「都市公園の整備について」
豊里花の公園及び豊里こども園
4. 出席者：委員長 氏家英人、副委員長 熊谷和弘
委 員 上野晃、關孝、浅田修、相澤吉悦、及川長太郎
(建設部) 建設部部长 千葉清、建設部次長 菅原和夫、
建設総務課長 伊藤勝、道路課長 星洋徳、
住宅都市整備課長 千葉伸一、都市政策専門監 三浦訓徳、
住宅都市整備課建築係長 菅原永隆、技術主査 阿部哲也
(福祉事務所) 子育て支援課子育て支援係長 志賀健、主査 伊藤祐司
(議会事務局) 局長補佐兼係長 佐々木美和
5. 概 要：(別紙のとおり)
6. 所 見：(別紙のとおり)

■立地適正化計画の進捗状況について

○概要

立地適正化計画は、人口減少・少子高齢化等を背景として、コンパクトなまちづくりと地域交通の連携により、将来にわたって暮らしやすいまちを実現するため策定する。

住宅や店舗、公共施設などをまちなかへ集約し、市民生活の利便性を維持することを目的としている。都市計画区域内で、住宅及び医療、福祉、商業施設の立地等に関する方針を定め、地域公共交通と連携し、一定の人口密度を維持していく「居住誘導区域」と、まち全体として必要な機能の維持を図る「都市機能誘導区域」を定め、人口減少社会に耐え得るコンパクトで持続可能なまちづくりに向けた施策をとりまとめる。

～区域設定に係る検討～

検討項目	本市における方針
居住誘導区域の設定	<ul style="list-style-type: none"> ◆生活利便性が高いエリア等を基本とした居住誘導区域の設定 ◆将来にわたり維持すべき施設等を考慮した居住誘導区域の設定 ◆災害の危険性があるエリアにおける土地利用の実態に応じた居住誘導区域の設定
都市機能誘導区域の設定	<ul style="list-style-type: none"> ◆拠点構築の具現化に向けた都市機能誘導区域の設定 ◆中心的な役割を担う拠点における都市機能誘導区域の設定
防災指針	◆居住の安全等を確保するための防災・減災対策を計画に位置づけ

■都市公園の整備について（豊里花の公園及び豊里こども園）

○概要

都市公園法に基づき市が設置・管理している都市公園「豊里花の公園」（敷地面積 5,800 m²）について、豊里こども園の設置に伴う公園の区域変更、豊里保育園と豊里ふるさとセンターを解体し公園の再整備を行うもの。

～整備方針～

令和元年度から豊里地域づくり検討会議での検討、豊里小学校を対象としたアンケート調査、中学生との懇談会での意見を参考に、地域の声を反映させた整備に努める。

～整備スケジュール～

年度	取り組み
R 2	豊里こども園完成 豊里ふるさとセンター等解体設計業務、豊里花の公園整備設計業務
R 3	豊里ふるさとセンター、豊里保育園解体工事
R 4	豊里花の公園整備工事

(現地調査)



豊里公民館で都市公園の整備について説明を受ける。



地域の声を取り入れ再整備される豊里花の公園



今後解体される豊里保育園と豊里ふるさとセンター



都市公園内に完成した豊里こども園

○所見

豊里花の公園内にある豊里ふるさとセンターは、外観はまだ活用できそうな建物に見えるが、実際に真近で見ると老朽化が進み、床に雨水が溜まっているなど、特に内部の劣化が激しく、解体やむなしと感じた。令和4年度に新たな豊里花の公園整備工事は始まるが、地域の意見を反映させた再整備となるよう努められたい。

産業建設常任委員会 活動概要

【所管事務調査③】

1. 期 間：令和2年12月14日(月) 午前10時4分～正午
2. 場 所：迫庁舎3階 第3委員会室
3. 事 件：
 - ・放射能汚染の農林業系廃棄物の処理について
 - ・登米市農業振興地域整備計画の見直しについて
 - ・人・農地プラン実質化について
 - ・登米市商工観光振興計画の見直しについて
4. 参 加 者：委員長 氏家英人、副委員長 熊谷和弘、
委 員 上野晃、關孝、浅田修、相澤吉悦、及川長太郎

(産業経済部) 産業経済部長 阿部孝弘、産業経済部次長 遠藤亨、
産業総務課長 千葉昌弘、農政課長 高橋紀元、
農林振興課長 高橋浩昭、地域ビジネス支援課長 櫻節郎、
企業立地推進専門監 佐藤貴光、産業総務課課長補佐 衣川智博

(議会事務局) 局長補佐兼係長 千葉敬子
5. 概 要：(別紙のとおり)
6. 所 見：(別紙のとおり)

■放射能汚染の農林業系廃棄物の処理について

○概要

東京電力福島第一原子力発電所の事故により発生した放射性物質を含む牧草・堆肥について、環境省所管の補助事業「農林業系廃棄物の処理加速化事業」を活用し、草地更新を行う圃場において農地還元処理（すき込み）を行うもの。

～保管量と処理計画～

保管量	期首保管量			R 2 処理計画			期末保管量		
	牧草	堆肥	合計	牧草	堆肥	合計	牧草	堆肥	合計
全体	1,672	913	2,585	415	15	430	1,257	898	2,155
400Bq/kg 超え	459	746	1,205	15	15	30	444	731	1,175
400Bq/kg 以下	1,213	167	1,380	400	0	400	813	167	980

400Bq/kg 超えの廃棄物の堆肥化は、廃棄物再測定を行い、12月中旬から1月に堆肥生成する。400Bq/kg 以下の廃棄物の草地更新は、準備作業を行い、12月下旬から2月にすき込み、3月に牧草播種する。

放射能汚染の農林業系廃棄物処理は、令和13年の完了を見込んでいる。

■登米市農業振興地域整備計画の見直しについて

○概要

農業振興地域整備計画は、都道府県知事により農業振興地域に指定された市町村が、概ね10年を見通して、地域の農業振興を図るために必要な事項を定めたもの。優良な農地を確保し保全するとともに、地域農業の振興を図るための総合的な農業振興の計画を見直し中。

～登米市農業振興地域整備計画の経過～

年度	農業振興地域整備計画に関する取り組み
H19	県から農業振興地域の指定を受ける
H20	農業振興地域整備計画を策定
H25	農業振興地域整備計画の見直し
R 1	農地利用実態と農家の意向を反映させるためアンケート調査を実施。
R 2	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画・農業振興ビジョン・都市計画マスタープラン等との整合性を図った。 ・今後10年間を見通し、農用地等と利用すべき土地を設定 ・農用地区域への編入や除外について、農振法で規定する農用地の基準に該当するか否かを判断。 ・地方審査会や県審査会での審査、県との最終協議 <p style="text-align: right;">令和3年3月に公示予定。</p>

前回の
見直しから
6年経過

～計画変更の概要～

●農用地区域の変更の検討状況

見直し前の農用地区域面積	16,635ha
面積の精査、修正等	△20ha
農用地区域への編入	1ha
農用地区域から除外	△84ha
見直し後の農用地面積	16,532ha
見直しによる増減	△103ha

●変更の内容

変更の内容	面積	備考
農用地区域への編入	0.7ha	変更申出、修正
農用地区域からの除外	84.1ha	見直し検討基準に該当 ①非農地と判定される農地 44.1ha ②生産性の低い介在農地 35.7ha ③集落内に介在する農地 4.3ha
用途区分の変更	5.2ha	農用地から施設用地へ変更 2.2ha 施設用地から農用地へ変更 3.0ha

■人・農地プラン実質化について

○概要

農業の持続的な発展に向けて、より具体的な地域農業の将来構想を策定するもの。実質化に取り組むことが、農業次世代人材投資事業や強い農業・担い手づくり交付金などの各種国庫補助事業の採択要件となる。

人・農地プラン実質化素案を作成し、登米市農業委員会農地利用最適化推進連携会議や9地区推進会議を開催し、2月に県へ実質化したプランを提出する予定。

～実質化の取り組み～

- ①町域単位でのプラン策定
- ②実質化推進体制の整備
- ③農地集約に関する将来方針の作成
- ④新型コロナウイルス感染症拡大への対応

■登米市商工観光振興計画の見直しについて

○概要

第二次登米市総合計画のまちづくり基本政策の一つである『地域資源を活かし、魅力ある元気な産業を「つくる」まちづくり』を目指し、商業、工業及び観光振興の具現化として平成28年2月に策定。(計画期間：平成28年度～令和7年度まで10年間)

「地域をあげた魅力創造による商工観光の持続的な発展」の基本理念の下、商工観光を取り巻く地域経済情勢の変動に対応するため、令和2年度に見直しを行うもの。商工観光振興計画策定検討委員会での検討を踏まえ、商工振興審議会から答申予定。

～見直しの基本的な考え方～

- ・起業・創業支援、新たなサービス産業の創出、工業団地への企業誘致、体験型観光の推進等への持続した取り組み
- ・経営者の高齢化、雇用確保、技術の高度化、大規模自然災害や新型コロナウイルスによる世界的な経済影響等中小企業者の自主努力だけでは解決できない課題に対し、中小企業の努力や創意工夫、市民の役割を明確にし、登米市の成長、発展のために地域が一体となった取り組み
- ・シティプロモーションとの連動や「おかえりモネ」、密を避けて楽しめる観光公園や森林公園、宮城オルレ登米コースなどの新たな観光資源を活かした観光振興

○所見

「人・農地プラン実質化」については、11月10日に農業委員会（農政改革特別委員会）との意見交換会を行っている。その際、農業委員の皆さんからは、コロナ禍の影響もあり、現時点で県へのプラン提出に向けてのスケジュールが遅れているとの話があった。プラン策定が遅れないよう、関係機関との連携のもと市がリーダーシップを発揮し、全力で取り組むべきと考える。

登米市商工観光振興計画は、10年間の計画期間の中間年にあたる今年度に見直しを行うものである。計画については、策定すること、また、見直しを行うことが目的ではなく、さらにゴールでもない。これを出発点として、見直し後の内容及び目標の達成に向けてしっかりとした取り組みを推進されたい。

産業建設常任委員会 活動概要

【意見交換会】

1. 期 間：令和3年1月19日(火) 午後1時20分～午後2時35分
2. 場 所：迫庁舎3階議事堂と登米総合産業高等学校（総合産業教室）
3. 事 件：登米総合産業高等学校との意見交換会
4. 出席者：委員長 氏家英人、副委員長 熊谷和弘、
委 員 上野晃、關孝、浅田修、相澤吉悦、及川長太郎

登米総合産業高等学校 教頭 服部克弘先生
主幹教諭 千葉健一先生ほか担当教諭3名
情報技術科3年生 生徒36名

(議会事務局) 局長補佐兼係長 千葉敬子
5. 概 要：(別紙のとおり)
6. 所 見：(別紙のとおり)

■登米総合産業高等学校との意見交換会

○概要

将来の登米市を担う高校生に、議会を身近に感じてもらい、社会の一員としてまちづくりに参画するきっかけづくりを行う。また、若者の意見を聴き、まちづくりに若者の視点を取り入れ、今後の政策提案に反映させる。

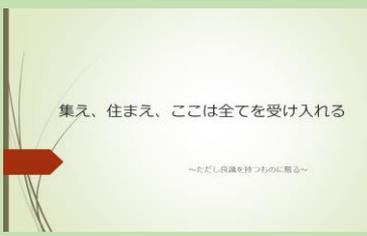
今年は、新型コロナウイルス感染症対策により、オンラインでの意見交換を行った。

第一部 ▶▶▶ 出前講座『市議会の仕事』

委員が、議会の仕組みや選挙について説明した。

第二部 ▶▶▶ 起業実践発表

登米総合産業高等学校では、生徒が地域課題の研究「起業実践」に取り組んでいる。今年度、情報技術科では9つのテーマを研究。今回は3つの提案を発表頂き、委員と情報交換を行った。

集え、住まえ、ここは全てを受け入れる	利便性の高い交通の実現	若者が楽しめる場所施設
 <p>《テーマ》みんなが集まる、楽しいシェアハウスを作りたい。</p> <p>《内容》近隣市に隣接する地域に通勤通学に便利で低廉なシェアハウスをつくる。</p>	 <p>《テーマ》高校生に市民バスに関するアンケートを取り、登米市に人を呼びこむ。</p> <p>《内容》利用実態に即したバスサイズでのきめ細かな公共交通ネットワークを整備する。</p>	 <p>《テーマ》カフェとアスレチック施設の複合施設。</p> <p>《内容》地域の資源を活用し、学校での学習を活かして自分達の技術で出来る事で観光地を盛り上げる。</p>
<p>委員から</p>	<p>委員から</p>	<p>委員から</p>
<p>若者が一人暮らしをするのに、家賃の負担は大きい。その負担を少しでも軽くして若者が暮らしやすくする。実際の空き家等の利用には財産の権利等も絡むが、経済的負担を抑え仕事や勉学に集中する基盤を作ることは有効。</p>	<p>毎日通学で使っている市民バスだけに、空バスの解消をしたいとの考え。目的地に向け、乗りたい時間にバスが来るのがベストであるが、全ての要望を叶えるのは難しい。乗客のニーズを的確に把握し、それに最大限応えるネットワークを整えるのが大事。</p>	<p>高校生が遊ぶ場所がない。地元の人には市内観光地には行かない。そうであれば、地域にあるものを使って、自分達で作って行こう！とするもの。行政だけでなく、地域や高校生ができる事でつながって盛り上げていくのは頼もしい。</p>

第三部 ▶▶▶ 意見交換『若者が住みたい未来のまちづくり』

自然環境

- 環境が整っている
(川、空気きれい)
- 環境が美化されている
- 温泉

住環境

- 家賃が安い(新社会人に優しい)
- 実質無料のシェアハウス、ゲストハウス

生活環境

- 歩道も凸凹がないまち
- 住民が優しい
- 活気があふれている
- 都会より田舎
- 交番が少ない
- 5G
- 物価が安い

文教施設

- きれいな大学や専門学校
- 書店が足りない
- 施設が充実しているまち



住みたいまち

娯楽

- パチンコ店が少ないまち
- 近くに娯楽施設がある
- ライブ・ジム・アスレチック・映画館
- 都会にあるようなお店
- 遊ぶところが多く遊べる施設が近くにある
- 楽しい施設があるまち
- ウーバー ・スタバ
- ディズニー(遊園地)

子育て・医療

- 子ども産んだら
1000万円
- 出産したら
お金をくれるまち
- 医療費が安くすむ

公共交通

- 交通網の充実
- 数分おきに電車やバスが来る
- 仙台との直通バスを100円に
- 交通の便が良い(バス・電車)
- 電車などの交通機関を増やしてほしい

職種・仕事

- 職種が豊富
- IT企業の多いまち
- 大きい企業
- 製造職ばかりではなくオフィスで行う仕事
- 魅力的な仕事があるまち
- 施設の設備が整っている

所得・給料

- 給料の高いまち
- 月収が高い
- 最低賃金を上げる
- 景気が良い

交通網

- 交通が便利
- 通勤手段が多い。



働きたいまち

働き方

- 転勤移住者支援
- 冬場はフレックス
- 職場内の人間関係が良い
- 活気があるまち
- 仕事帰りに行けるような飲食店
- 職場から自宅が近い
- 通勤が楽なところ
- 住む場所が多い

納税

- 税金の安いまち
- 在住で在勤なら29歳まで市民税無料



Zoom を使いリモートで高校生と話す産建委員

○所 見

オンラインでの意見交換会は、初の試みであったので心配な点も多々あったが、結果的には双方ともに有意義な時間となった。

委員会側からの議会と選挙の仕組みについての説明の後、生徒側からは、地域課題（若者が考えるまちづくり）について研究、取り組んでいる「起業実践」について3つのグループから発表があったが、それぞれ若者ならではの視点での提案で、大いに参考になったし、頼もしくも感じた。また、意見交換のテーマは「若者が住みたい未来のまちづくり」であったが、生徒側からの多様な意見に私たちが今、取り組むべき課題が見えたように思った。

今回で2回目の登米総合産業高校との意見交換会。地元に残り、活躍する卒業生が多い、地域に根ざした産業学校との交流は今後も継続していきたい。